

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年1月23日

【評価実施概要】

事業所番号	1595700012		
法人名	社会福祉法人 苗場福祉会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	新潟県北魚沼郡川口町大字西川口1247-1 (電話) 0258-89-4285		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	19年	11月12日

【情報提供票より】(19年10月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成	18年	12月	1日
ユニット数	2	ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14	人	常勤	14人、非常勤 0人、常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火 造り		
	2	建ての	2階 ~ 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000	円	その他の経費(月額)	21,000	円
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有	無
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日あたり		1,000	円	

(4) 利用者の概要 (19年10月現在)

利用者人数	16	名	男性	4	名	女性	12	名	
要介護1	1	名	要介護2		5	名			
要介護3	7	名	要介護4		2	名			
要介護5	1	名	要支援2		0	名			
年齢	平均	80	歳	最低	70	歳	最高	92	歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川口診療所、鞍立歯科、小千谷総合病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームさくら」は川口町の西川口地区に位置し、すぐ近くに社会福祉協議会や特別養護老人ホームがあり、川口町の福祉圏域ともいえる環境にある。母体法人は、県内外に複合福祉施設を展開する社会福祉法人であり、川口町からの誘致もあって、昨年、このホームを開設した。ホームは川口町に初めて開設された認知症グループホームであり、認知症ケアについて地域の人々から期待と関心をもって見守られ、開設から1年を過ぎようとしている。デイサービスセンター等が併設した2階建ての2階部分がホームであり、複合施設としての多機能性を活かした取り組みを行っている。また、将来、共用型の通所や短期入所の受け入れを念頭におき、ゆったりとした空間となっている。職員の対応もゆったりとしていて、利用者の表情や雰囲気もよく、落ち着いて楽しみのある生活を送っている様子が見てとれた。今後はさらに地域の人々との交流を深め、地域に向く配食サービスを計画するなど、よりいっそうの取り組みが期待できるホームであると思われる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今度が初回の外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回は初回ということもあり、積極的に自己評価に取り組み、ホームとしての目標を高く持って現状を評価・分析し、今後さらに改善に取り組みたい点を明らかにしている。サービスの質の向上に意欲的であり、運営理念を職員個々の目標に具体化し、実践の状況を評価する取り組みも行なっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヵ月に1度、定期的に開催し、利用者の状況やサービスの実績について話し合っている。その中で、災害時において地域の人々から協力を得るための働きかけが必要であるという課題が明確になり、今後、改善に取り組んでいく予定である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族への報告は十分なされているが、家族の意見・要望等を汲み取り、ホームの運営に反映することは今後の課題となっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として町内会の活動や祭りなどの行事に参加し、利用者も買物や散歩を通して地域社会に溶け込んでいる。他の福祉施設との連携も図られている。一方で、ホームの理念を地域に伝え、理解してもらうことは今後の課題となっている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念である、「自ら受けたい医療と福祉の創造」をグループホームでも理念として掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、法人の理念を共有し、それを施設、部署、個人の人々の目標として具体化し、その実践の状況を振り返り検証する取り組みを行っている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	併設の事業所全体として、地域向けの広報紙を発行してホームの取り組みを地域の人々に伝える努力は行っている。しかし広報紙にホームの理念を掲げて理解を求めるとは至っていない。利用者の家族に対しては、入居時にホームの理念を説明している。		広報紙や認知症に関する学習会などの機会に、家族や地域の人々にホームの理念について継続的に発信し、さらに理解を深めてもらえるよう取り組みが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは、地域の一員として町内会の活動や祭などの行事に参加しており、利用者も買物や散歩を通して地域社会に溶け込んでいる。こうした取り組みを通じて、認知症の方が明るく当たり前で生活できることを地域の方に知ってもらえるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は、今年度2回にわたって自己評価に取り組み、その内容と意義を理解し、改善に役立てている。また、外部評価についても、サービス改善の機会として積極的かつ前向きに取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回、定期的開催し、利用者・家族・老人会代表・地域包括支援センター職員・民生委員が出席している。出席者の意見は、防災訓練などサービスの向上・改善に向けた取り組みに活かされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームは、川口町の担当者と普段から密に連絡を取り合い連携を図っている。また、地域包括支援センターとの共催で認知症予防教室を開催するなどの取り組みを行っている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、虐待防止のための事例集を各ユニットに配置して職員に周知を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に対しては毎月お便りを送付している他、家族が来訪する際に口頭でも連絡している。ホームでの様子は、電話で連絡をおこなっている。家族によっては、きめ細かい連絡は不要と話される方もいるので、どのような連絡体制がよいか、確認も行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に簡単な家族アンケートを実施して、意見等を汲み取るための取り組みを行なっている。集計作業が遅れており、結果をホームの運営に反映するにはまだ至っていない。		アンケート結果を集計・活用するとともに、随時口頭でも意見等を聞けるよう働きかけ、その内容をホームの運営に反映できるように期待したい。
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティング等で職員からの相談や提案・意見等を聞き、ホームの運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設から現在まで職員の動きは退職による1名にとどまっている。また、今後の職員の異動ローテーションは3年を目途として、入居者への影響を最小限にするよう配慮して計画されている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	法人で作成されたマニュアルが主体となっており、金銭管理や、買い物、処遇に関するマニュアルは整備されていた。認知症高齢者に対して必要と考えられる食事・排泄・入浴を中心としたホーム独自の業務マニュアルは整備されていない。		現時点ではマニュアルがないことで不都合は生じていないようであるが、新しい職員が配置されたり、常にケアの原点に戻るという観点からも、業務マニュアル・その他の各種マニュアルを整備することを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修として、新人研修・中堅職員研修が計画・実施されている。さらに、職員は月に3回開催される法人の各種委員会に出席しており、そこでも随時の研修が行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームは、地域の福祉施設との意見交換を行うとともに、法人の他ホームとの連絡会を開いて意見交換を行い、サービスの質の向上にむけた取り組みを行っている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	複合施設の施設長と管理者は職員のストレス軽減のために、月に1回、面接を行い、相談・助言等を行っている。さらに、管理者が直接現場に入って状況確認をおこなったり、管理者とユニットの責任者が職員のストレス軽減に向けてストレスマネジメントの研修を受ける予定である。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人から事前にホームに訪れてもらうよう働きかけ、あらかじめ顔馴染みの関係が作れるよう心がけている。本人が事前に来られない場合には家族から事前に見学してもらうなどして、本人が安心して、納得した上で入居できるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、畑仕事・野菜作りや料理を利用者と一緒に行っており、花の名前や育て方を教えてもらうなどして、利用者を介護される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にする関係を築いている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族から利用者への対応について助言を受け、一緒に本人を支える関係を築いている。また、行事を通じて家族と共に楽しみの場を持てるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向が明確に示されることは少ないが、これまでの暮らしなどから本人本位の支援ができるよう検討している。そうした中で、踊りが趣味であることを知り、ボランティアと外出している事例もある。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴などについて、本人や家族とのやり取りを通じてセンター方式のアセスメントシートに記録し、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見・希望を踏まえ、居室担当の職員も交えて、ユニットの責任者が介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は原則として3ヵ月ごとに見直しを行っている。利用者の状態変化に応じて随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム職員が病院受診の付き添いをしている。また、複合施設であることを活かして、デイサービス部門の行事に参加したり、利用者同士の交流をしたりしている。利用者の希望に沿った外出も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに隣接する協力医療機関がかかりつけ医である利用者がほとんどであり、適切な医療を受けている。他の病院がかかりつけ医の場合でも適切に受診支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族と話し合っ方針が定められているのは1名に留まっている。そのほかの入居者の家族とは、終末期に向けた方針の共有はできていない。		すべての入居者について、重度化や終末期に向けた方針を定め、関係者で共有していくことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関するマニュアルを整備し、それに基づき、利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。個人の記録は、個人情報保護のマニュアルに基づき、鍵の掛かる書庫に適切に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先することがなく、外出や食事作り、音楽活動など、利用者の希望とペースを尊重している。居室にキーボードを持ち込んで楽しんでいる利用者もいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物や食事の準備・後片付けは入居者と職員が一緒に行い、食事と一緒に食べており、食事が楽しみなものになるよう支援している。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の自立に向けて開設時から重点的に支援し、入居当初はオムツやリハビリパンツを利用していた利用者もおられたが、現在ではほとんどの方が普通の下着を使用している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日の入浴が可能であり、利用者の希望に応じている。病気や体調不良で入浴できない場合にも、清拭・足浴・手浴を実施している。入浴を好まない利用者には、その方の担当職員が誘導を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割・楽しみごと・気晴らしについては介護計画にも項目として記載し、それに基づいて、食事作りや下膳、習字や外出・イベント参加など、利用者の生活歴や力を活かした支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添って川口町内の商店・道の駅などへ買物に出かけている。また、法人内の他ホームに出かけて利用者同士が交流するなど、日常的な外出支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者と管理者・職員は身体拘束について正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束の廃止に向けたマニュアルが整備され、移動の制限をしないことや鍵をかけない工夫、必要以上の向精神薬を使わないことなど、具体的な研修が行われている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。複合施設全体の玄関の施錠は夜間のみであり、施設内にある各ユニットの入り口は、日中・夜間ともに鍵をかけていない。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書に基づき、ホームとして事故統計を分析して、事故が発生しやすい時間帯を把握し、対策に取り組んでいる。リスクマネジメント委員会も開催し、事故・災害を防ぐための知識を学んでいる。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	利用者の急変や事故発生時に備えるため、マニュアルを整備し、勉強会を開いたり、研修会に出席したりはしているが、訓練は実施していない。		すべての職員が、万全の応急手当や初期対応ができるよう、定期的な訓練の実施を期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	災害時に備えた避難訓練は実施しているが、地域の人々への協力の働きかけはまだ実施していない。		運営推進会議で災害対策について協議された結果を踏まえ、地域の人々から協力が得られるよう働きかけることを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調・状態を見ながら、食事や水分を全量摂取し、確保できるよう取り組んでいる。しかし、栄養バランスや水分量について十分に適切であることを示す記録は整備されていなかった。		入居者1人ひとりの食事・水分摂取の記録を取り、適切に栄養摂取・水分確保の支援を行うことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでの活動写真や、職員と入居者が作った干し柿が共有空間から見る事ができる。共用空間は、将来のホーム多機能化を見通してゆったりとした設計になっており、入居者にとって不快な音や光がなく、居心地良く過ごすことができている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具が持ち込まれており、入居者によっては位牌や家族の写真などで、その人らしい落ち着ける空間になっている。		